

丑年を迎えて

和牛試験場 林 正 夫

新年おめでとうございます。

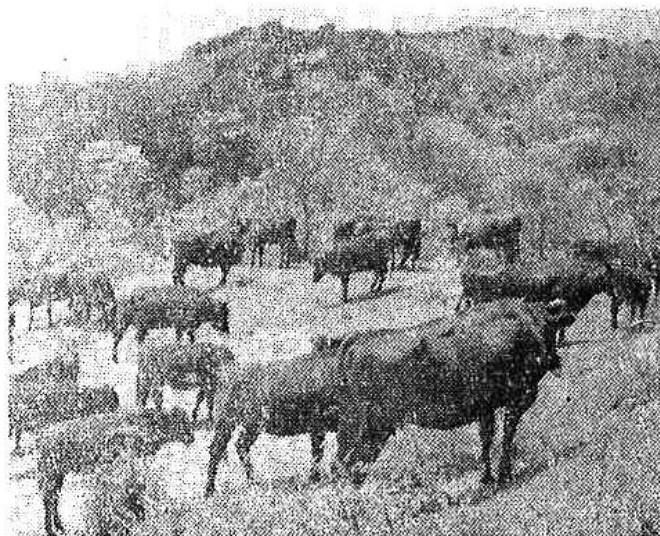
今年は、丑の年で、日ごろ丑とともに生活する私達としては、「冥土の旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」などと、すましてはおられない気持です。

幸い去年は牛価も岩戸景気で、和牛農家に明るい笑いが充満しましたが、和牛の需給事情から、今年も引きつづいて、高値を維持できるものと期待されてますので、今年の一つ、丑年でもあり、大いに和牛振興の実を挙げたいものです。

和牛をとりまく客観情勢なり、和牛が現在おかれている位置なりについては、連日紙上その他にたえず見聞するところで、今さらここに紙数を無駄に費やすこともないと思います。要は私達が日ごろ見聞する事がらを正確に判断し把握して、知っていることを早く実行することにあると思います。1、2例を挙げて見ますと、

「草を作って経済的に和牛を増産しよう」ということについて誰でも知っています。和牛に胃袋が4つあって、反すうという機能があることも誰もが知っています。これは、昔々牛がまだ野生していたころ、外の強力な外敵の目を盗んで、急いで草木を呑み込んで、物かげの安全地帯へ寝そべってから、ゆっくり心行くまで反すうしたから、こうなったのだそうですが、まあこのように粗末なものを大量喰いだめ？して、血肉にする能力のある経済的な家畜は他に見つかりません。ところが、現実には、大事にしようとして、必要以上に購入の濃厚飼料を使って牛の長所を減殺したり、全く反対に荒廃した牧野へ文字通り放牧してしまったり、極く身近かなところに、まだこのような大問題が放置されています。

和牛は今必要なだけの頭数がありません。牛殊にせり市場での仔牛が高い筈です。岡山県の北部は全国有数の和牛生産地帯です。ところが、農家では1頭の繁殖雌牛から毎年仔牛を産ませているでしょうか一般には2年に1頭とか3年に2頭というのが実情のようです。幾らあっても足りない位るとき、何



とか増産にピッチを上げなければなりません。まして、凍結精液による人工授精も実用の域に達して、最も優秀な種雄牛の精液は精液銀行に貯蔵登録しておいて、時間的にも地理的にも融通無碍、大いに利用拡大されることの可能なきとき、また優良系統雌牛からは排卵毎に授精して、授精卵はこれを他の一般雌牛の腹を借りて育てさせるという方法を繰り返して、思うがままに優良系統牛だけでの改良増殖ができるという可能性が学者の間で取り上げられあながち夢でなくなろうとしている時、少なくとも年々1頭の仔牛を必らず産ませる位お安いご用とならなければと思います。衛生的あるいは栄養学的な面での飼養管理の工夫がまだまだと慾が出ます。

牛肉の中で、和牛の肉ほどうまいのは、世界中どこにもないそうです。岡山県では、「安価な大衆肉」を目標に「若令肥育」を奨励しています。全国で1番うまい肉は三重県の伊勢の肉牛から、あるいは滋賀県のもの、東京方面で相場がきまっています。長い間培った老舗の強みで、生やさしいことでは、この堅陣は抜けないでしょう。しかし、うまい牛肉を輸出して、ドル獲得に一役担わせることは割合早くできることではないかと思えます。優れた肉を安く生産することを、和牛試験場でも究明する積りでいます。

岡山県の和牛が10万頭を割ったことは、いろいろ

岡山畜産便り 1961.01

な意味から、良い体験として、関係者に思考の好材料を提起したと解せられないこともないと思います。

多少冗言が過ぎた嫌いがある宇宙旅行も可能となろうとしているときですから、「牛歩遅々」でなく、着実にしかも迅速に、和牛の進歩を望んで丑年の始めに当って、和牛の過去現在を顧りみ、将来への飛躍を期したいと思います。